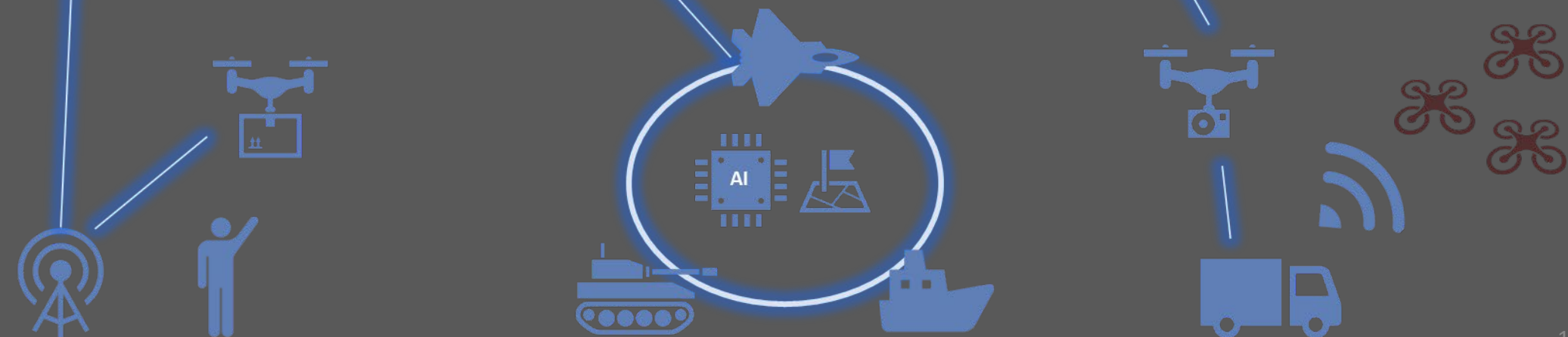


# 次世代情報通信技術等の導入に向けた防衛省の取組

防衛省 –Ministry of Defense, Japan–



# 【1】政府・防衛省の方針（関連部分抜粋）

「国家防衛戦略（令和4年12月16日 国家安全保障会議決定及び閣議決定）」

## Ⅲ 我が国の防衛の基本方針

### 1 我が国自身の防衛体制の強化

#### （2）国全体の防衛体制の強化

**オ 先進的な技術に裏付けられた新しい戦い方が勝敗を決する時代において、先端技術を防衛目的で活用することが死活的に重要**となっている。

「防衛力整備計画（令和4年12月16日 国家安全保障会議決定及び閣議決定）」

## Ⅲ 自衛隊の能力等に関する主要事業

### 5. 指揮統制・情報関連機能

#### （1）指揮統制機能の強化

**迅速・確実な指揮統制を行うため、抗たん性のある通信、システム・ネットワーク及びデータ基盤を構築し、スタンド・オフ防衛能力及び統合防空ミサイル防衛能力を始めとする各種能力を統合的に運用するため、リアルタイムに指揮統制を行う態勢を概成するとともに、各自衛隊の一元的な指揮を可能とする指揮統制能力に関する検討を進め、必要な措置を講じる。**

「防衛技術指針2023」別紙 我が国を守り抜く上で重要な技術分野（令和5年6月）

（前略）、例えば、**高速、低遅延通信を実現するBeyond 5G技術**、IoTの進展等による大量のデータに対応するための大容量通信技術、秘匿性を確保しながら正確な通信を行うための量子暗号通信技術、確実な通信を実現するためのネットワーク抗たん性向上技術、あらゆる場所での通信を可能とする通信中継技術、ネットワーク構成要素の稼働に必要な電力を無線で伝送する広域無線給電技術、**通信処理において光電変換を極力行わず光のまま処理を行うことで高速、大容量通信を可能とする光通信技術**などが考えられる。（以下略）

## 【2】防衛力強化の方向性について

### 05 我が国の防衛力の抜本的強化

### 防衛力の抜本的強化の7つの柱

我が国の防衛上必要な機能・能力として、以下の7つの柱を重視して、防衛力の抜本的強化に取り組んでいきます。

#### スタンド・オフ防衛能力

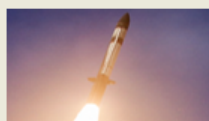
攻撃されない安全な距離から相手部隊に対処する能力を強化



# 01

#### 統合防空ミサイル防衛能力

ミサイルなどの多様化・複雑化する空からの脅威に対応するための能力を強化



# 02

#### 無人アセット防衛能力

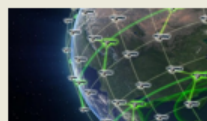
無人装備による情報収集や戦闘支援等の能力を強化



# 03

#### 領域横断作戦能力

全ての能力を融合させて戦うために必要となる宇宙・サイバー・電磁波、陸・海・空の能力を強化



# 04

#### 今後5年間の最優先課題

- 現有装備品を最大限有効に活用するため、可動率向上や弾薬・燃料の確保、主要な防衛施設の強靱化への投資の加速
- スタンド・オフ防衛能力、無人アセット防衛能力等の将来の中核となる能力の強化

#### 指揮統制・情報関連機能

迅速かつ的確に意思決定を行うため、指揮統制・情報関連機能を強化



# 05

#### 機動展開能力・国民保護

必要な部隊を迅速に機動・展開するため、海上・航空輸送力を強化  
これらの能力を活用し、国民保護を実施



# 06

#### 持続性・強靱性

必要十分な弾薬・誘導弾・燃料を早期に整備、また、装備品の部品取得や修理、施設の強靱化に係る経費を確保



# 07

#### ≫ 我が国への侵攻を抑止する上での鍵「反撃能力」

我が国周辺の軍事動向から、ミサイル攻撃が現実の脅威となる中、ミサイル防衛能力の強化だけでは、完全に対応することは難しくなりつつあります。

そのため、ミサイル防衛により飛来するミサイルを防ぎつつ、更なる攻撃を防ぐため、我が国から有効な反撃を相手に加える能力、すなわち反撃能力を保有する必要があります。

こうすることで、我が国にミサイル攻撃などを試みようとする相手の計算を複雑化させ、我が国を攻撃することは簡単ではない、攻撃することはやめておこうと思わせることができます。



### 【3】ユースケース (将来の領域横断作戦のイメージ)



防衛省令和6年度予算案の概要 (P17) より抜粋

### ①全省的な検討体制を設置

- 昨今の民間分野における情報通信技術の急激な進展の成果を防衛力強化に活用していくため、令和5年（2023年）夏、事務次官を長とする次世代情報通信技術導入推進委員会を設置。
- 同委員会では、本省内部部局、各幕僚監部、防衛装備庁等の関係部署の知見を結集し、次世代情報通信技術等の動向の調査・分析を進めて、防衛力強化に資するものの特定を進め、同技術等を取り込んだ将来の防衛力の構想、運用体制等について検討。

### ②Beyond 5G/6Gの実証等に着手

- 上記の調査・分析や検討に際しては、民間企業とも連携。
- その一環として、現に商用展開されている高速大容量・低遅延の通信サービスを自衛隊でも実証し、関連技術やサービス等の評価、ニーズの具体化、要すれば、防衛省による独自投資などを通じて、防衛装備品等への早期装備化を進めていく考え。